



資料集 日本の砕石資源

須藤定久著(社)日本砕石協会発行
A4判, 217p. 定価5,500円(税除く)

砕石は、輸入大国日本には例外的なほぼ100%自給の資源である。最盛期には年間約9億トンもの需要があり、コンクリート骨材や建築物・道路の路盤材として利用されてきた。このような多量の需要をまかなうためには、資源の状況を的確に把握し、社会や自然の負荷が最も少ない長期計画と開発が求められる。おりしも、採石法(砕石と天然砂利を対象)の施行権限が2000年4月から都道府県に移管され、採石の安定供給は各自治体が主体となって行うこととなった。このため各自治体は、開発適地の探査および合理的な開発方法の策定などに必要な資源状況を明らかにする必要性に迫られた。その主対象は、新たな開発が難しい天然砂利ではなく砕石資源となる。

砕石の開発や利用に関しては、多くの工学書が出版されている。しかし地質学に基づく邦文のものは見あたらない。著者は、改組前の地質調査所時代にひきつづき約10年間採石資源の評価にかかわってきた。その業務を通して、地質学の知識が、開発適地の探査や評価・開発方法の検討などにもっと活用されるべきであるとの信念が生まれたい。

このような社会的、個人的背景から、本書が出版される運びとなったようだ。

本書の構成は、地質と砕石の概論、都道府県別の各論および付属のCD-ROMからなる。

概論には、地質と砕石資源の基礎知識のほか、資源図の作成方法が詳しく述べられている。

各論には、各都道府県別の地質と砕石資源の生産統計データを含めた解説があり、砕石資源図がカラーで、個別につけられている。

また、参考として、砕石消費2大地区である、関

東および近畿・関西地区の砕石の供給地と消費地を結びつける流れが半定量的に描かれており、社会科学教科書としての価値がある。

CD-ROMには、県別の生産統計資料、県別の砕石資源図が納められている。著作者の著作権をとくに主張せず、積極的な活用を呼びかけている。

資源図はできる限り簡略化され一目で概要を理解できるように表現されている。そのため砕石問題を都道府県単位で考察したり、より具体的な調査を計画するためのガイドブックとして利用することが出来る。地質学を活用し、骨材資源を社会や自然への負荷が少ない方法で開発するべきであるという著者のねらいは、この本の普及によって生かされるように思える。しかし本文に断り書きがあるように、1982年地質調査所発行の地質図に基づいた地質図のため、堆積岩の時代表現などが古いままのところ有一部分あり、注意を要する。

CD-ROMに収納の県別資源図は、冊子のA4判の大きさに合わせた画像(ラスターファイル)として納めてあるため、都道府県の大きさに左右された縮尺となっている。このため図面をほかの地図と重ね合わせるためには、各図面ごとに図中のスケールバー(より正確には、地図のわかりやすい2地点の長さ)に基づいて印刷縮尺を求める必要がある。

砕石資源図に実際の採掘場の分布図を重ね合わせた例を、参考図3として1例加えてあれば、この図の有効さをもっと具体的に示すことが出来たのではないかと思う。

最後に、本書のおもな対象読者層は、採石行政の担当者や地域地質の技術者であると思われるが、地質データを社会が求める情報に変換することに関心のある方にも一読をお勧めする。

(平野英雄)

問い合わせ・申込先は、(社)日本砕石協会
〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館4F
TEL.03-3456-1371, FAX.03-5476-4327